

様式48 (第88条関係)

×整理番号	
×受理年月日	年 月 日

## 液化石油ガス設備工事届書

年 月 日

佐賀県知事 殿

氏名又は名称及び法人にあ  
つてはその代表者の氏名

印

住 所

液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律第38条の3の規定により、  
次のとおり届け出ます。

工事に係る供給設備又は消費設備の所在地	
当該設備の所有者又は占有者の氏名又は名称	
当該設備の使用目的	
貯蔵設備の貯蔵能力	
工事の内容	

- (備 考) 1. この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。  
2. ×印の項は記載しないこと。  
3. 氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）を記載し、押印することに代えて、署名することができる。この場合において、署名は必ず本人が自署するものとする。

## バルク供給設備の技術上の基準

（500kgを超え1,000kg未満）

1.貯槽の設備状況	地盤面上 ・ 地盤面下
2.貯槽の適合性	特定設備検査合格証 ・ 特定設備基準適合証
3.保安距離	①第1種保安距離（法定1.5m 構造壁等又は埋設設置0m） 実際距離 _____ m 保安物件の名称 _____ ②第2種保安距離（法定1.0m 構造壁等又は埋設設置0m） 実際距離 _____ m 保安物件の名称 _____
4.構造壁等 （有・無）	壁の構造 材料 _____ 寸法（高さ） _____ m（幅） _____ m
5.警戒標の表示	①LPガス及び火気厳禁（朱書き） ②緊急連絡先の表示の有無 有 ・ 無
6.腐食防止措置	下地処理・錆止め塗装等の有無 有 ・ 無
7.転倒防止等の 措 置	支柱又はサドル等取付けの有無 有 ・ 無
8.プロテクター内 のガス漏れ検知 器の設置等	①ガス漏れ検知器の設置の有無 有 ・ 無 ②常時監視システム設置の有無 有 ・ 無
9.火気等との距離	①火気等の種類 _____ 火気等との距離 _____ m ②火気距離が2m以内 防火壁等の設置の有無 有 ・ 無
10.バルク貯槽の 貯蔵能力の算定	$W = 0.85 \times w \times V$ W：貯蔵能力（kg） w：40℃における液比重（kg/L） V：貯槽内容量（L）
11.ガスメーター の選定	（算定式）  <span style="float: right;">（成績表別添）</span>
12.調整器 の選定	（算定式）  <span style="float: right;">（成績表別添）</span>
13.ローリ停止 配置図	<span style="float: right;">（図面別添）</span>
14.附属機器	バルク貯槽取付附属機器の一覧表を添付すること。
15. 地盤面上  地盤面下	規則第19条の3 二の基準を図面に明記  規則第19条の3 木の基準を図面に明記

## 液化石油ガス法第38条の3の届出内容

1. 設備の名称、所在地及び工事期間 (別紙NO )
 

名 称 ℓ

所在地 供給戸数 戸

工事期間 年 月 日～ 年 月 日
2. 設備の所(占)有者
 

所(占)有者等 ℓ

管理者 ℓ
3. 上記にLPガスを納入する販売所の名称及び所在地等 (別紙NO )
 

販売所の名称 ℓ

販売所の所在地

上記設備と販売所間との距離 Km (車で 分)

業務主任者の氏名 供給開始 年 月 日
4. 供給設備の能力 kg × 本 = kg

容器設置本数の基礎計算 (別紙NO )
5. 最も近い火気及び、保安物件との距離 (別紙 )
 

( ) 内に対象物を記入する ① 火気との距離 m ( )

② 第1種保安物件 m ( ) ③ 第2種保安物件 m ( )
6. 容器の設置方法 (別紙NO )
 

① 警戒標 有・無 面 ② 消火器 型 本

③ 障壁 有・無 ( )

④ 床面積  $m^2$  ⑤ 通気孔  $cm^2$  × 個 =  $cm^2$

7. 自動切替調整器 (別紙NO )

メーカー名 型式 能力 kg/h

8. 気化装置 有・無 (別紙NO )

メーカー名 型式 能力 kg/h

加熱方法 ①電熱 ②電気温水 ③ガス温水 ④蒸気 ⑤その他

保守契約の有・無 契約先

9. バルブ、集合装置等腐蝕防止措置の材料及びその方法 (別紙NO )

10. 供給管配管の各径の総延長、材料及び腐蝕防止の方法 (別紙NO )

11. 工事従事者の設備士免状の写 (別紙NO )

12. 気密試験成績表の写 (別紙NO )

実施日 年 月 日

実施者氏名 \_\_\_\_\_

立会者氏名 所(占)有者氏名 \_\_\_\_\_

保安センター氏名 \_\_\_\_\_

13. 安全機器の種類 (マイコンメーター、遮断弁、警報器、漏洩検知装置等)  
(別紙NO )

14. 特定液化石油ガス設備工事記録台帳の写 (別紙NO )

15. 特定液化石油ガス設備工事事業者の名称、受理年月日及び受理番号

名 称  
受理年月日  
受理番号

液化石油ガス設備工事届

(バルク供給に係る供給設備の技術上の基準)

	内 容	適 否	備 考
バルク貯槽の基準 (1トン未満に限る) 規則19条 三号～八号	バルク貯槽は、高圧ガス保安法に定める特定設備検査合格証又は特定設備基準適合証を有すること	適 否	
	バルク貯槽から第一種保安物件、第二種保安物件に対して法定距離を有すること	適 否	
	バルク貯槽に係る機器の設置及び腐食防止措置、転倒防止措置	適 否	
	地盤面上に設置するバルク貯槽の基準	適 否	
	地盤面下に設置するバルク貯槽の基準	適 否	
	バルク貯槽は液化石油ガスの漏洩がないものであること	適 否	
	バルク貯槽のプロテクター内に、ガス漏れ検知器を設け、常時監視するシステムに接続する	適 否	
	バルク貯槽と2メートル以内の火気をささざる措置を講じ、屋外に置く	適 否	
	バルク貯槽と調整器の間で液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置を講じること	適 否	
	供給管の基準	適 否	
	貯蔵設備、気化装置及び調整器は、一般消費者等の液化石油ガスの最大消費数量に適応する	適 否	
	バルブ、供給管及びガス栓は、腐食、割れ等がない	適 否	
	バルブ、供給管及びガス栓への腐食防止措置	適 否	
	バルブ、供給管の材料は、その使用条件に照らし、適切なものであること	適 否	
規 則 1 8 条 四号～二十二号 (八号、十七号除く)	調整器とガスメーター間の気密試験	適 否	
	バルブ、気化装置及び供給管の漏洩試験	適 否	
	燃焼器入口における圧力が、器具に適した圧力を保持している	適 否	
	建物により供給管が損傷するおそれがないこと	適 否	
	供給管は、地くずれ等、地盤の不同沈下等の恐れのある場所又は建物の基礎面下に設置しないこと	適 否	
	供給管が、その周辺に危害を及ぼす恐れがあるときの危険標識の設置	適 否	
	供給管に液化物が滞留する恐れのある時の排除する措置	適 否	
	一の供給管から二以上の消費設備へ供給する場合は、ガスメーターの入口側にガス栓を設置する	適 否	
	気化装置の基準	適 否	
	調整器の基準	適 否	
	地下室、地下街での設置基準	適 否	
	ガスの自動停止装置又はガス漏れ警報器及び耐震自動ガス遮断機の設置	適 否	

(別紙 )

液化石油ガス法第 38 条の 3 の届出内容の気密試験成績表の写しの添付

自記圧力計チャート紙添付欄

実施日 年 月 日

気密試験実施者氏名 \_\_\_\_\_ 印  
所(占)有者立会者氏名 \_\_\_\_\_ 印  
保安調査事務所立会者氏名 \_\_\_\_\_ 印  
保安調査事務所名 \_\_\_\_\_ 印